

【総合的な学習の時間】 第25回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 制作活動の継続・試作

2. 本時の概要

本時は、前時から開始した「なかよし学園プロジェクト」の制作・試作フェーズをさらに推し進め、次時(1月24日)の最終完成に向けて成果物を確かな形にしていく100分(50分×2コマ)の授業である。実際に手を動かし、試作(プロトタイプ)の完成度を上げ、実社会の制約に適合しているかを検証することをねらいとしている。

前半(1時限目)は、「LIFEログ」による自己省察を行った後、探究計画書のスケジュールに「1月17日」の活動目標を設定する。教員からは、成果物の目安(冊子の場合はB5用紙・5枚まで)や安全指導に加え、国際宅急便で送れないものに関する注意喚起を行う。これにより、自分たちのアイデアが単なる工作ではなく、実際に現地へ届けられる物としての条件を満たしているか(物質的な実現可能性や印刷の要不要など)をチームで再確認させ、試作・制作を進めさせる。

後半(2時限目)は、役割分担(文章・イラスト・工作・データ作成等)に基づいた制作活動を継続する。終了前には紛失防止のため全てのパーツや袋にチーム名を明記してコモンスペースの指定場所へ適切に片付けを行い、最後に計画書へ「本日の活動内容」と「次に行うこと」を記録し、最終回となる次時への明確な見通しを持たせる。

これらの活動を通して、実社会のルールや制約を考慮しながら計画を形にする問題解決力を養うとともに、限られた時間の中で責任を持って協働する自律的活動力と協働性を高めるために本時を設定した。

3. 本時の目標

- 自己省察と納期から逆算した目標設定(自律的活動力に関わる目標):

LIFEログを通じて自らの学びを客観的に記録するとともに、次時の最終完成を意識して、本日の具体的な作業目標を計画書に設定できる。

- 現実的制約を考慮した粘り強い試作・制作(問題解決力に関わる目標):

国際宅急便の配送規制やサイズ制限(B5・5枚まで等)を遵守し、安全に配慮しながら、文章・イラスト・データ作成などの役割に応じて試作・制作を進めることができる。

- 確実な成果物管理と最終回への見通し(表現力・協働性に関わる目標):

制作物への記名とコモンスペースへの適切な片付けを徹底し、本日の進捗と次回の持ち物・家庭でのタスクを計画書に明記してチーム内で共有できる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:

- 授業スライド 第25回

- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2019)『課題研究メソッド Start Book』新興出版社啓林館
- 生徒用配布プリント:
 - 探究計画書

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
1分	① 本時の流れの説明 スライドに基づき、本時の全体の流れ(1)LIFEログ、(2)制作活動の開始・試作)を確認する。	来週(1/24)が最終完成日であることを強く意識させ、本時の作業の重要性を伝える。
9分	② LIFEログの入力ワーク ・端末でスクールタクトを開き、「総合的な学習/探究 LIFEログ」の「1月」の課題にアクセスする。 ・前回の活動を踏まえた気づきや学びのプロセスについて、4～5行を目安に入力する。	・文字サイズの変更はせず、リアルな気づきを豊富に溜めておくよう改めて伝える。 ・1月末からLIFEログを用いた授業を予定している旨を継続してアナウンスする。
5分	③ 探究計画書のスケジュール確認と目標設定 ・各自のチームの「探究計画書」を開く。 ・【7】スケジュールにある完成日(1/24)を再確認する。 ・1/17(土)の欄の下に「①今日の予定・目標」を書き足し、「今日中に何をどこまで具現化するか」を具体的に記入する。	・最終納期から逆算し、「今日中にプロトタイプをどこまで完成させるか」をチーム内で合意させる。
35分	④ 制作ガイダンスと制作・試作活動の推	

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	進 ・教員から制作物の目安について説明を聞く。 (冊子等の場合:大きさはB5用紙、枚数は1チーム5枚まで) ・「国際宅急便で送れないもの」の基準を確認する。 ・カッターやハサミの使用に関する安全上の注意(手元への集中、怪我の即時報告)を受ける。 ・役割分担(文章・イラスト・工作・データ作成など)と材料を確認し、試作・制作活動を進める。	・南スーダンへの配送が困難な立体物になっていないか、原則として「紙製の薄い冊子」等の条件を満たしているか確認する。 ・デジタル制作を行うチームについては、物質的な印刷が本当に不要か、その場合の提出形態はどうなるかを事前にチェックする。 ・教員は机間巡視を行い、材料不足や作業の停滞がないか個別に支援する。
10分	休み時間	・教員は前半の進捗を把握し、後半の継続作業に向けた声かけを準備する。
【2時限目】		
40分	⑤ 制作活動の継続と片付け・保管 ・1時限目に続き、チームごとに集中して試作・制作活動を継続する。 ・作業終了時、パーツの紛失を防ぐため、全てのパーツや袋に必ず「チーム名」を明記する。 ・制作物や材料を回収し、クラスごとの指定場所へ綺麗に片付ける。	・完成度が上がってきた段階で、当初の「探究計画書」の背景や目的とブレが生じていないか適宜問いかける。 ・共有スペースを利用するため、迅速かつ確実な片付け・保管を徹底指導する。
10分	⑥ 探究計画書の振り返り記入(終了時) ・探究計画書の1/17(土)の欄に、以下の項目を追加で入力する。 「②本日の活動内容」実際にできたこと、担当した作業	・「③次に行くこと」において、次回の授業冒頭から即座に最終仕上げに入れるよう、冬休み明けの作業ペースを維持させるための具体的な宿題(家でのデータ作成やイラストの下書きなど)を明確に記述させる。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	「③次に行くこと」来週の持ち物、家で行うこと ・次回が最終提出となるため、追加で購入すべきものや準備物の最終確認を行う。	